

第3章 基礎データ把握・整理

(1) 人口・世帯動向の整理

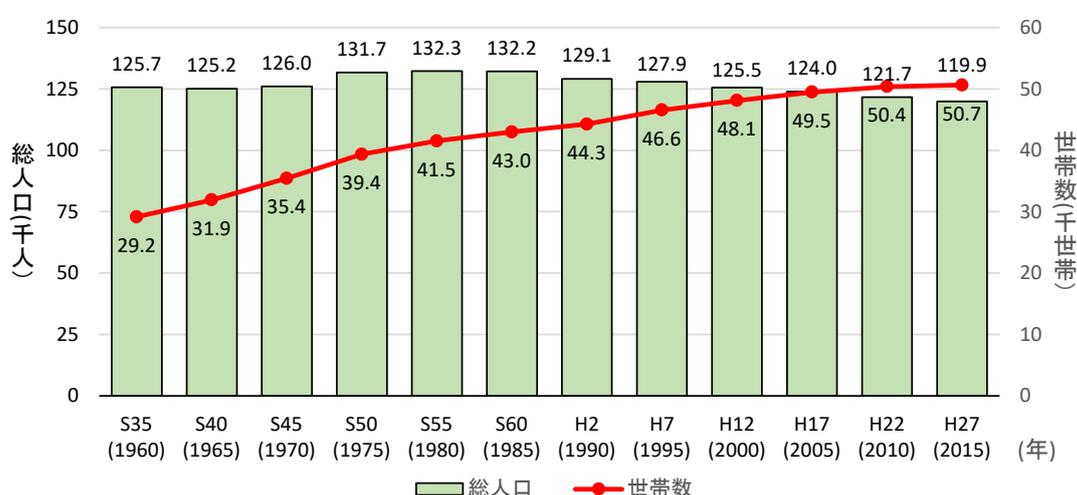
ア. 都市全体の人口動向

本市の人口は、昭和35年の125.7千人から昭和55年の132.3千人をピークに平成27年の119.9千人と減少傾向にあります。

このように人口減少が進むなか、世帯数は、昭和35年の29.2千世帯から平成27年の50.7千世帯と常に増加傾向にあります。

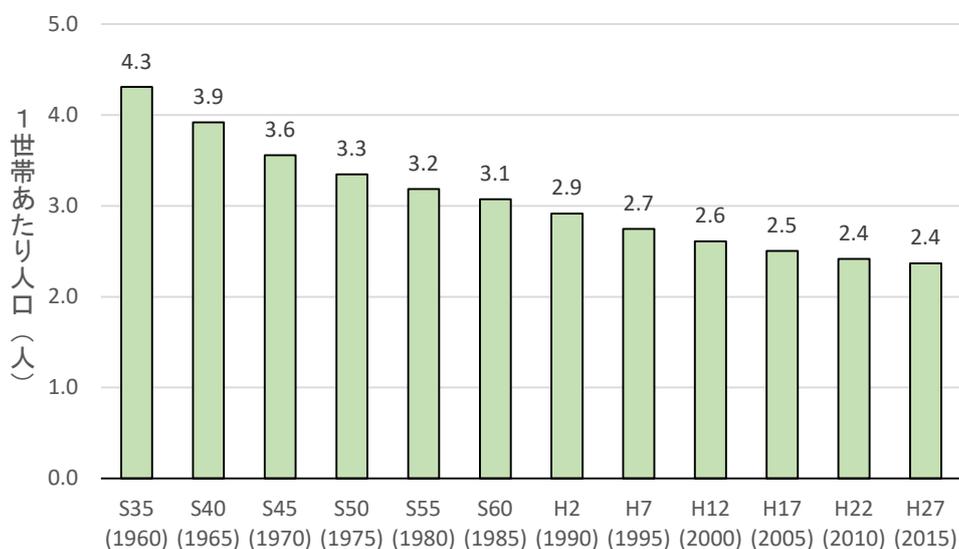
また1世帯当たりの人口は、昭和35年が4.3人であるのに対し、平成27年は2.4人と減少傾向で、核家族化の進行が考えられます。

図表 人口推移



資料:国勢調査

図表 1 世帯あたり人口



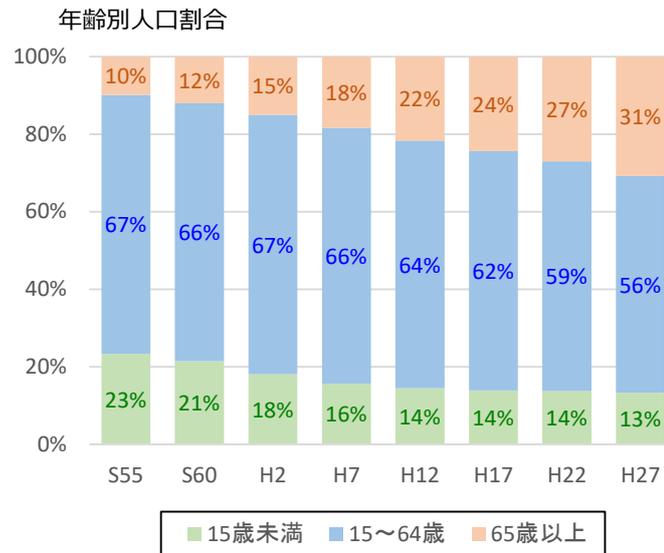
資料:国勢調査

イ. 年齢階層別人口の推移

年齢別人口割合は、15～64歳の生産年齢人口割合が昭和55年から平成27年に11ポイント減少し、高齢者人口の割合は昭和55年の10%から平成27年の31%と大きく高齢化が進行し、超高齢社会が形成されていると考えられます。

※高齢者人口…65歳以上人口

図表 年齢別人口割合の推移

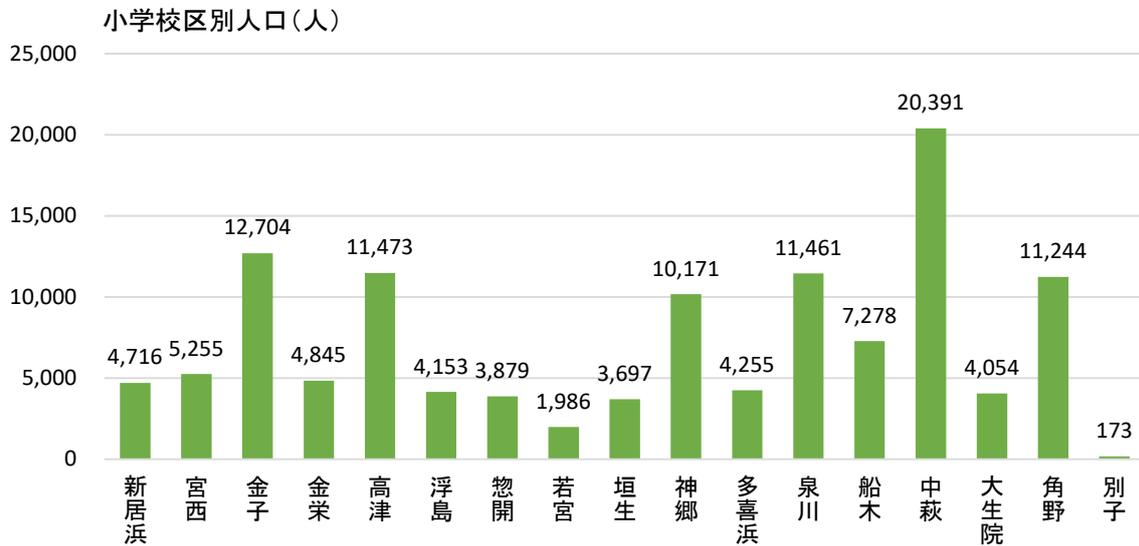


資料：国勢調査

ウ. 地域別の人口動向

小学校区別人口は中萩小学校区の 20,391 人が最も多く、ついで金子小学校区、高津小学校区と続き、1 万人を超える小学校区は 6 校区となっています。

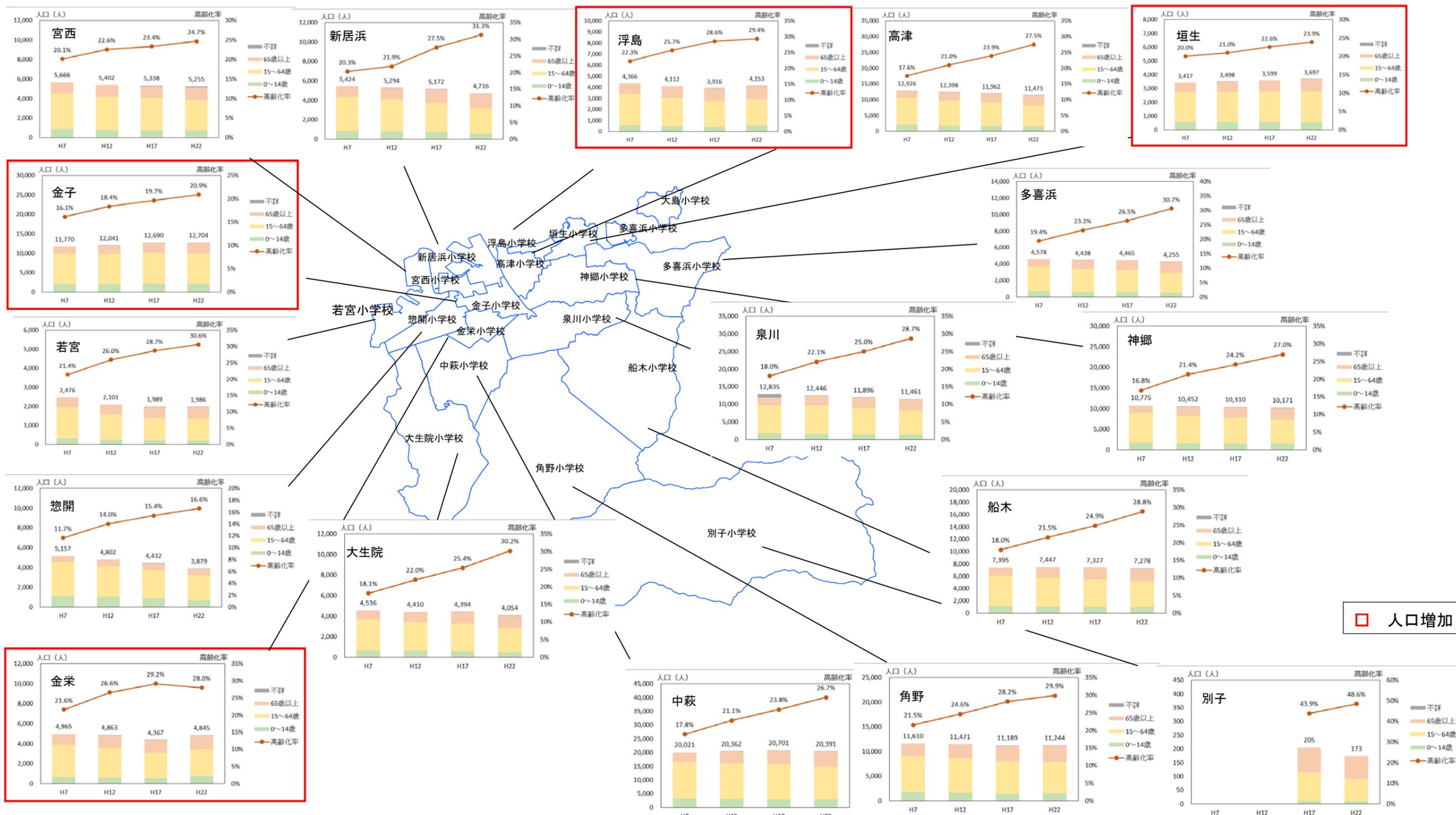
図表 小学校区別人口(平成 22 年)



資料: 国勢調査

近年人口増加傾向となっている浮島小学校区、垣生小学校区、金子小学校区、金栄小学校区以外ほとんどの小学校区で人口減少と少子高齢化が進行しています。特に惣開小学校区を除く小学校区で高齢化率 20% を超える超高齢化となっており、この傾向はますます進んでいくと予想されます。

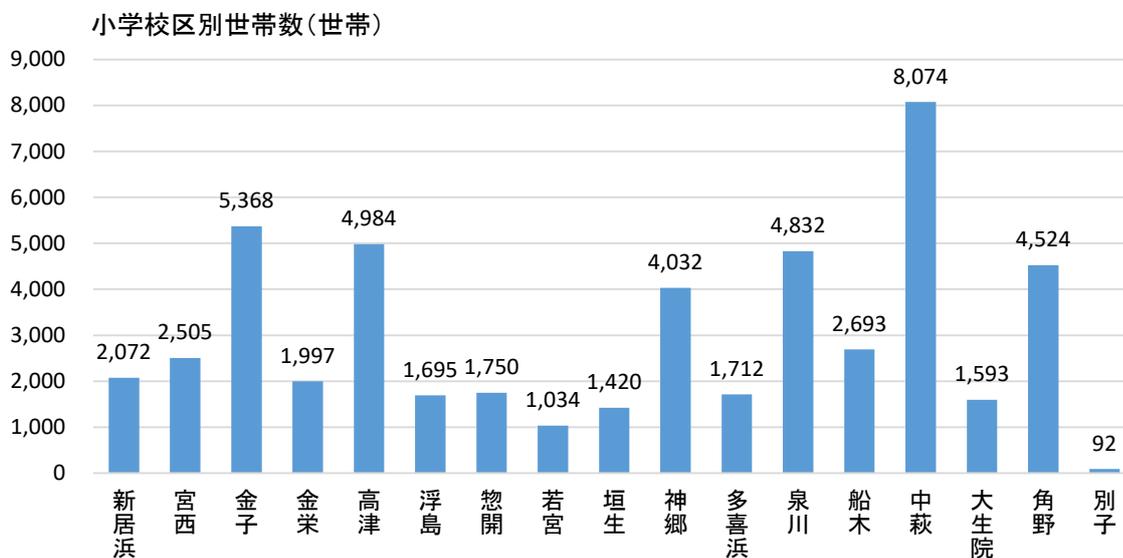
図表 小学校区別人口推移



資料: 国勢調査

小学校区別世帯数は中萩小学校区の8,074世帯が最も多く、ついで金子小学校区、高津小学校区と続き、4千世帯を超える小学校区は6校区となっています。

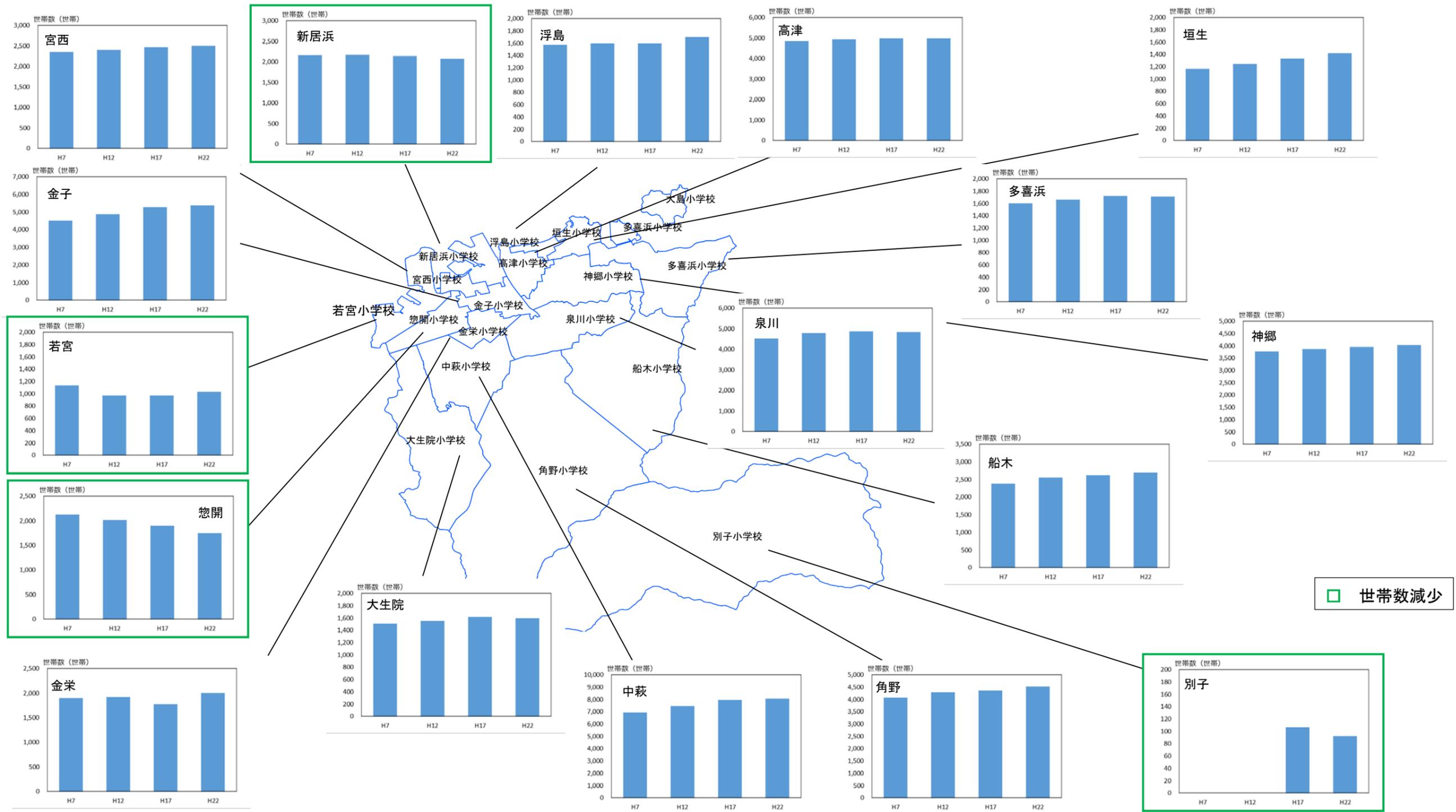
図表 小学校区別世帯数(平成22年)



資料:国勢調査

新居浜小学校区、若宮小学校区、惣開小学校区、別子小学校区を除く小学校区で世帯数増加傾向にあります。

図表 小学校区別世帯数推移

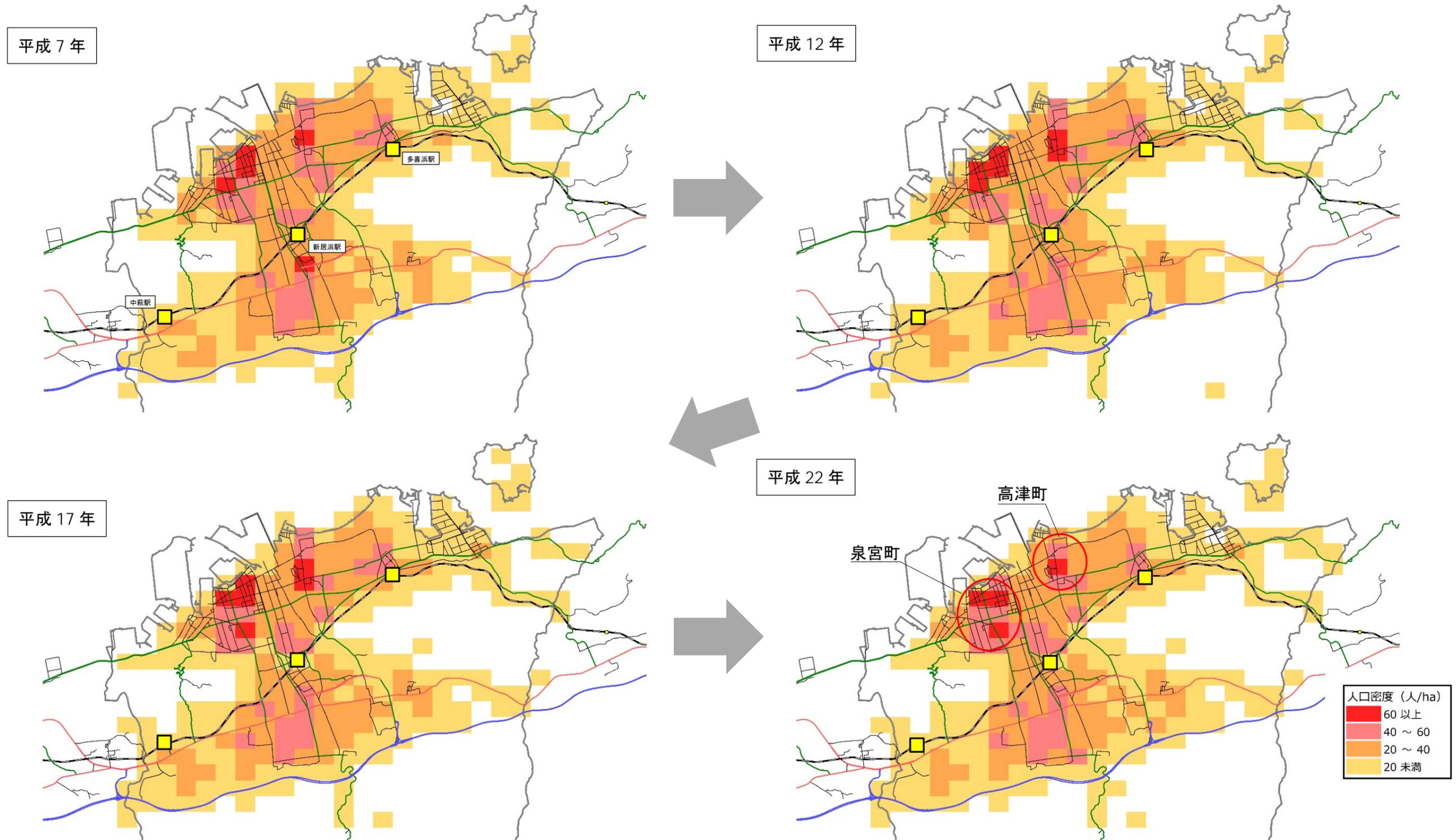


資料: 国勢調査

エ. 人口密度の推移

本市の人口密度は、泉宮町等の中心市街地や高津町が比較的人口密度が高い地域となっています。

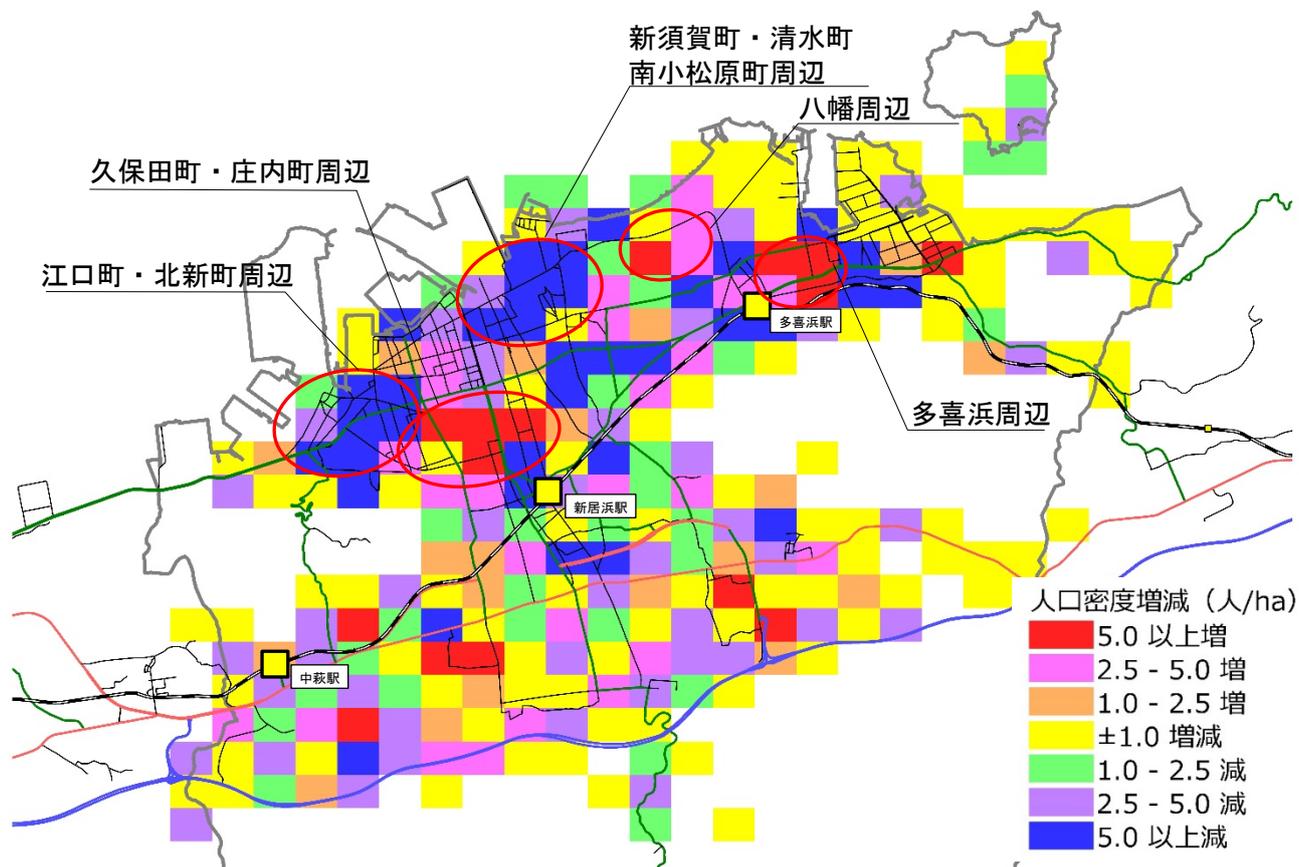
図表 人口密度



資料: 国勢調査

人口密度の推移は、久保田町・庄内町、高木町周辺や八幡町周辺は人口密度の上昇地域となっていますが、古くからの市街地であり、まちの更新が進んでいない新須賀町・清水町などの大部分は人口減少となっています。

図表 人口密度の推移(平成7～22年)

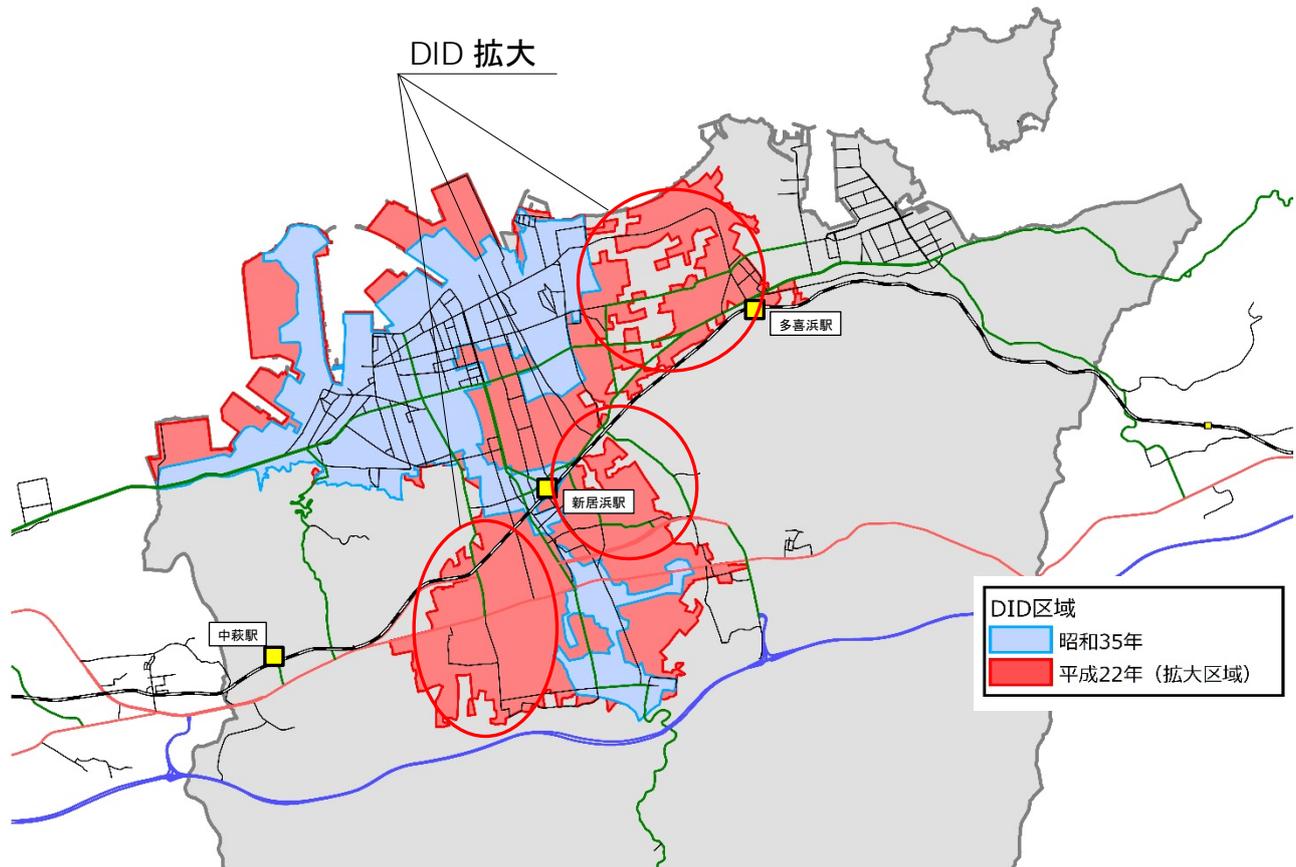


資料: 国勢調査

オ. DID の推移

DID（人口集中地区）の拡大状況は昭和 35 年当時から比べて非常に拡大しており、特に新居浜駅南側の DID の東西への拡大や、川東地区への拡大などが顕著となっています。

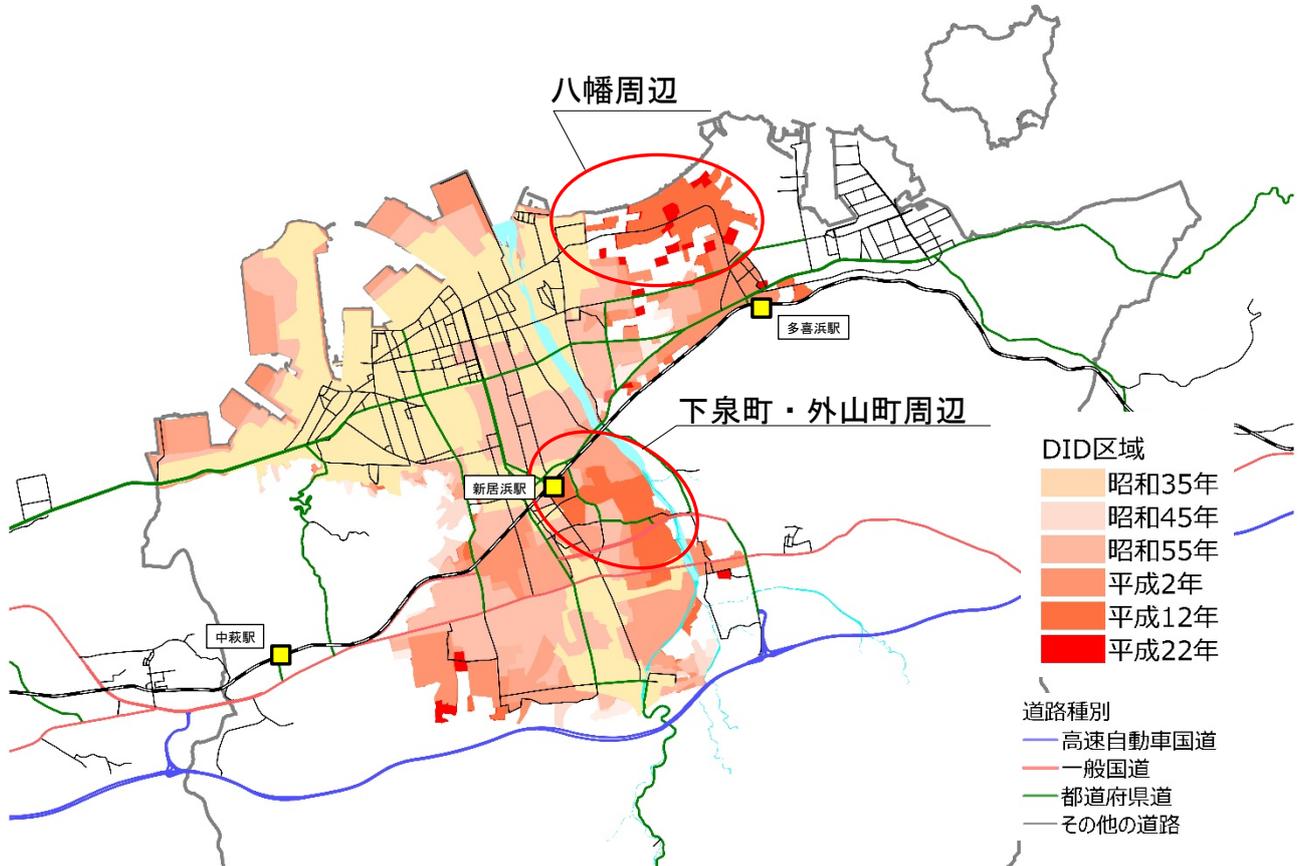
図表 DID 区域の拡大状況(昭和 35 年～平成 22 年)



資料:国勢調査

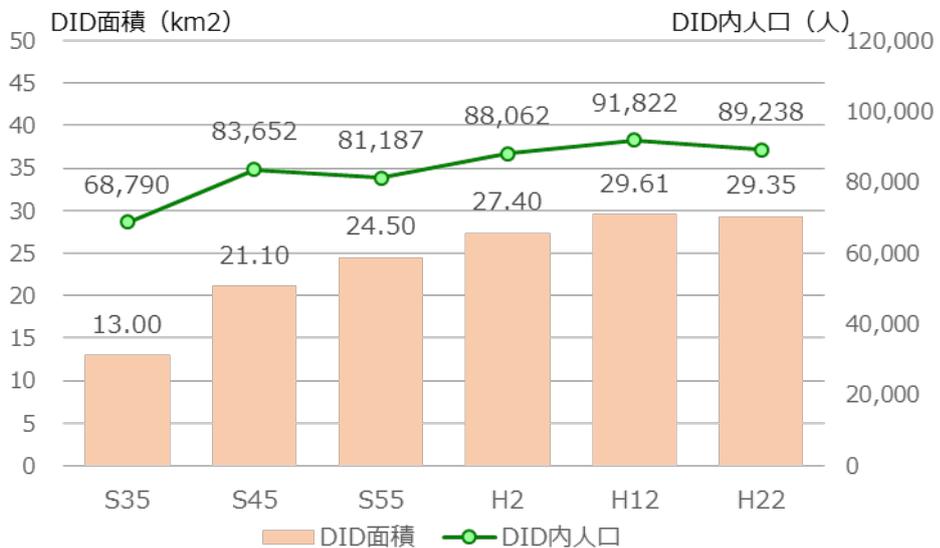
DIDは昭和35年以降拡大を続けており、平成12年以降は拡大が沈静化しています。特に、八幡周辺と新居浜駅南側の下泉町・外山町周辺は、平成以降に急速に拡大しています。

図表 昭和35年～平成22年 DID(人口集中地区) 拡大地域



資料: 国勢調査 統計地理情報

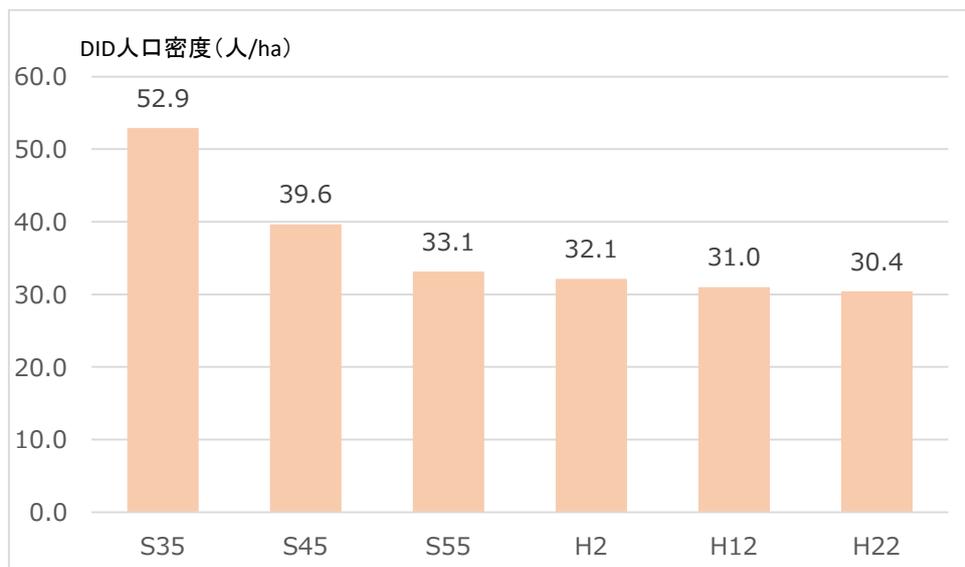
図表 DID面積とDID人口の推移



資料: 国勢調査

DID 人口密度を見ると、DID 面積が拡大する一方で、人口密度は低下しています。

図表 昭和 35 年～平成 22 年 DID 人口密度の推移



資料: 国勢調査